

2020 - 21 年度 第二回 報告書

(報告期間 2020 年 9 月 26 日 ~ 2020 年 12 月 31 日)

国際ロータリー第 2710 地区

グローバル補助金奨学生

河野 絢子

報告書提出日：2021 年 1 月 5 日

派遣クラブ：広島北ロータリークラブ

カウンセラー：秋山 竜一様

受入クラブ：Rotary Club of Berkeley

カウンセラー：Mr. Grier Graff

留学先：University of California, Berkeley

専攻：Master of Public Health (MPH)

1. 学業の報告

私が所属する Interdisciplinary MPH program (多分野に跨る公衆衛生学プログラム)は11 ヶ月のプログラムです。夏学期は2020年7月から8月にかけて開講され、秋学期は9月から始まり、12月に終了しました。通常2年間かけて取得する単位数を1年間で取得するプログラムですので、秋学期も忙しく過ごしました。また、奨学金をいただきながら勉強できるという大変恵まれた環境にありますので、なるべく多くの授業を選択し、幅広く深く学びたいという意欲に溢れた秋学期でした。

3歳になったばかりの娘もおりますので、娘と過ごす時間も大切にしつつ、学業にも注力することは時にチャレンジングでしたが、時間を効率的に使うことで良い結果を残すことができましたと思います。娘は日中は保育園に通っていますので、9時から16時の間は授業や課題に集中しました。夕方から夜にかけては娘と過ごす時間を大切にし、娘が寝た後にまた課題に取り組む毎日でした。課題やリーディングの量が非常に多いのですが、過去の職務経験を活かしながら効率的に取り組むことができましたと思います。また、母子栄養保健と共に、定量的な研究を行うに必要な統計スキルを身に着けたいという明確な目的がある為、一つ一つの授業がその目標に向け前進しているという実感があり、非常に有意義に過ごせました。

コロナウイルスの影響により、全ての授業がオンラインで実施されたことが非常に残念ではありますが、小さい子どものいる状況においては、時間の融通が効く為、良い面も多くありました。また、UCバークレーの学生に対するサポート体制が充実しており、オンラインとはいえ大変充実した授業を受けることができました。例えば、「Piazza」というオンライン掲示板において、授業に関する質問は何でも匿名で投稿することができ、教授やチューター (Graduate Student Instructor, GSI)がほぼリアルタイムで回答してくれます。また、各授業では教授やGSIとのOffice hourが設定されており、直接相談したいことがあればZoomで気軽に行うことができます。但しオンラインだと授業前後の雑談の時間がない為、他の学生との横の繋がりができにくく、その点は非常に残念だと感じました。ただ学業の面では、対面授業と遜色変わらない内容を学び理解することができたのではないかと思います。

秋学期で取得した授業と単位数、及び成績は下記の通りです。

- 健康と社会行動 (必修) 2単位 A
 - 公衆衛生におけるリーダーシップ(必修) 2単位 A+
 - 医療政策とマネジメント (必修) 2単位 A-
 - MPH プログラムセミナー (必修) 4単位 A+
 - 多変量解析 4単位 A+
 - 統計とデータサイエンス 4単位 A-
 - 公衆衛生栄養学コアコース 2単位 A+
 - 母子栄養保健 3単位 A
- (合計 8コース 23単位)

多変量解析の授業では、実際に統計ソフト「R」を使い統計データ分析を行うという最終課題に取り組みました。せっかくの機会なので、修士論文のテーマである“Double burden of malnutrition”（栄養過多と栄養不足が同時に進行している状態）について分析を行い、結果をレポートにまとめました。具体的には、ナイジェリアにおける妊娠中の栄養不足と栄養過多が新生児及び乳幼児死亡率に与える影響につき、Rを使って回帰分析を行いました。結果、肥満状態の妊婦から生まれた場合、新生児および乳幼児死亡率が非常に高くなることが判明したのですが、授乳したか否かにより、その死亡率が大きく変動することが分かりました。授乳を行っていた場合は死亡率が極端に低くなり、授乳を行っていなかった場合には非常に高くなりました。従って、過去の研究ではアフリカにおいて、妊婦の過体重や肥満が新生児死亡率に大きく寄与するという結果が出ていたのですが、今回の結果により、むしろ授乳ステータスの方が重要であるという結論が導き出されました。この最終課題を通じて、修士論文の執筆に必要な統計解析を行うことができ、非常に有意義な授業となりました。また、授業で執筆したレポートをジャーナルに投稿するため、現在編集を行っているところです。ジャーナルに掲載されるまでには長い道のりとなりますが、途中経過を追ってご報告させていただければと思います。

2. 受入ロータリークラブとの関わり

Zoomで開催されているバークレーロータリークラブの例会に二度ほど参加させていただき、皆様に自己紹介をさせていただきました。秋学期は例会と同じ時間帯に授業が入ってしまった為、頻繁に出席することがなかなか難しく、残念でした。カリフォルニア州ではコロナウイルスの感染者数が引き続き増加の一途を辿っており、現在では全米一の感染者数となっています。従って、バークレーロータリークラブの方々とお会いする機会が未だ無く、直接ご挨拶することができず大変心苦しい思いです。春学期においては、せめて例会により積極的に参加できるよう、授業を調整したいと思います。

3. 生活面

オンライン授業の為、日々自宅で授業を受けていましたが、せっかくの機会なのでUCバークレーのキャンパスを訪れてみました。広大なキャンパスは緑豊かで清々しく、できれば卒業式くらいはここで行って欲しいな、と切実に感じました。現在の感染状況を鑑みると、6月までに対面授業が行われる見込みは非常に低いのですが、仕方ないと諦め、今できる範囲でできるだけのことを吸収し、良い研究ができるよう引き続き励んで行こうと思います。



↑大学の正門・セイザーゲート。



↑通う予定だったキャンパスの前で。



⇐大学のシンボル・セイザータワー。
通常であれば、エレベーターで昇って
景色を楽しむことができます。

4. 今後の目標

春学期は2021年1月18日より開始されます。秋学期の調子で春学期も良い実績を残せるよう、引き続き努力したいと思います。但し、学業に専念するだけでなく、バークレーロータリークラブの皆様とより積極的な交流を重ねていけたらと思います。例会で研究内容を報告する機会を設けていただくなど、オンラインでも交流できる方法をカウンセラーのGrierさんと相談させていただこうと思います。次回の報告書にて、バークレーロータリークラブとの交流の様子をお伝えできたらと思います。